

(案)

令和6年11月18日

苜田町長 遠田 孝一 様

苜田町環境審議会  
会長 高見 徹

次期ごみ処理方式について（答申）

令和6年5月20日付け6苜環第245号により諮問のあった標記事項について、下記のとおり答申します。

記

1 最適な次期ごみ処理方式について

「苜田町一般廃棄物（ごみ）処理基本計画」における新たなごみ処理システムの検討方針、国・県が推進する広域化・集約化の目的、並びに事業開始年度を加味した事業費の比較結果や脱炭素社会への貢献度等を踏まえ、慎重に審議した結果、「北九州市へ一般廃棄物（可燃性ごみ）の受入れについて要請し、現ごみ処理施設敷地内に町単独で廃棄物中継施設を整備した上で、ごみ処理（北九州市処理施設での焼却）を委託する」を最適な処理方式として選定する。

2 北九州市との協議・広域連携について

北九州市との一般廃棄物（可燃性ごみ）の受入れに関する協議については、可能な限り早期に開始されるよう努めるとともに、北九州市のごみ処理の状況及び受入れに係る条件等に十分配慮されることを要望する。

また、本町の広域連携の要請が、「北九州都市圏域連携中枢都市圏ビジョン」に基づく地域全体の環境保全・循環型社会構築に向けた取組となるよう最大限努力されることもあわせて要望する。

## 【付帯意見】

次期ごみ処理方式への円滑な移行を図るための取組として、下記のとおり意見を付します。

### 記

#### 1 現処理施設の延命化について

新たな廃棄物中継施設稼働までの安定したごみ処理体制を確保するため、現処理施設については、必要最低限の機能維持が図れるよう計画的な維持管理（修繕等）を行うこと。その際、維持管理（修繕等）に要する費用については、可能な限り削減するよう努めること。

#### 2 分別方法の変更について

「北九州市と同等またはそれ以上のリサイクル、減量努力」に取り組む必要性から、北九州市が既に実施している「プラスチックごみ」や「紙ごみ」の資源化（新たな分別項目として設定）については、早急に検討を開始すること。

なお、分別方法を変更する際には、本町のホームページやSNSをはじめ、新たな分別冊子の配布、住民説明会の開催、並びに町内イベントでの啓発などのあらゆる媒体や機会を活用した情報提供を行い、その周知については十分実施すること。

#### 3 「ごみの減量」について

現処理施設（設備）への負担を減らす点、新たな処理施設建設の際に過剰投資を避けることができる点、北九州市に支払う処理委託費を含む維持管理費を削減できる点から、ごみの減量については継続的に取り組むこと。

本町の家庭系ごみ（可燃性ごみ）の排出量は減少傾向にあるが、先に述べた分別方法の変更等により更なる減量を推進すること。また、北九州市へ処理を委託するものではないが、県内で最も多く排出されている「粗大ごみ」の減量についても今後積極的に取り組むこと。